

令和 4 年度 動物愛護相談センターにおける動物由来感染症調査結果

(令和 5 年 3 月 31 日現在)

1 犬と猫の寄生虫調査

- (1) 検体採取期間 令和 4 年 4 月から令和 5 年 3 月まで
- (2) 対象及び規模 ①犬 9 頭(延べ検体数 9)、猫 37 頭(延べ検体数 67)の糞便
②犬 9 頭、猫 8 頭の虫体確認
- (3) 方法 ①直接塗沫法及び飽和食塩水浮遊法による糞便中の虫卵の同定
②解剖検査による心臓内及び消化管内における虫体確認と同定
※動物愛護相談センターで虫卵及び虫体の同定が困難な場合は、健康安全研究センター微生物部病原細菌研究科寄生虫研究室に同定の協力を依頼する。
- (4) 結果

① 糞便検査 (虫卵)

対象 (延べ検体数)	陽性頭数	内 訳			
		回虫	イソスポラ属	条虫(エキノコックス含む)	鞭虫、鉤虫等
犬 9 頭 (9 検体)	1	0	0	0	鞭虫 1
猫 37 頭 (67 検体)	12	7	8	瓜実条虫 1 マンソン裂頭条虫 1	糞線虫 1

糞便検査を実施した猫のうち、5 頭で寄生虫の重複感染を認めた。内訳は、猫回虫及びイソスポラ属の感染が 3 頭、イソスポラ属、マンソン裂頭条虫及び糞線虫の感染が 1 頭、猫回虫及び瓜実条虫の感染が 1 頭であった。

② 解剖検査による虫体確認

検体	陽性頭数	内 訳			
		犬糸状虫	回虫	条虫 (エキノコックス含む)	鞭虫、鉤虫等
犬 9 頭	3	2	0	瓜実条虫 1	0
猫 8 頭	0	0	0	0	0

複数の寄生虫類に感染していた個体はなかった。

2 狂犬病ウイルス検査のための安全で簡便な検体採取方法の検討

今年度、犬 8 頭、猫 8 頭を用いて、狂犬病の検体採取を行った。検体採取は、DVD 教材「狂犬病検査に必要な解剖方法 (安全で簡便な脳の取り出し方の一例) Ver 2」に基づいて行い、技術の習得と向上を図ったが、新たな方法の検討には至らなかった。